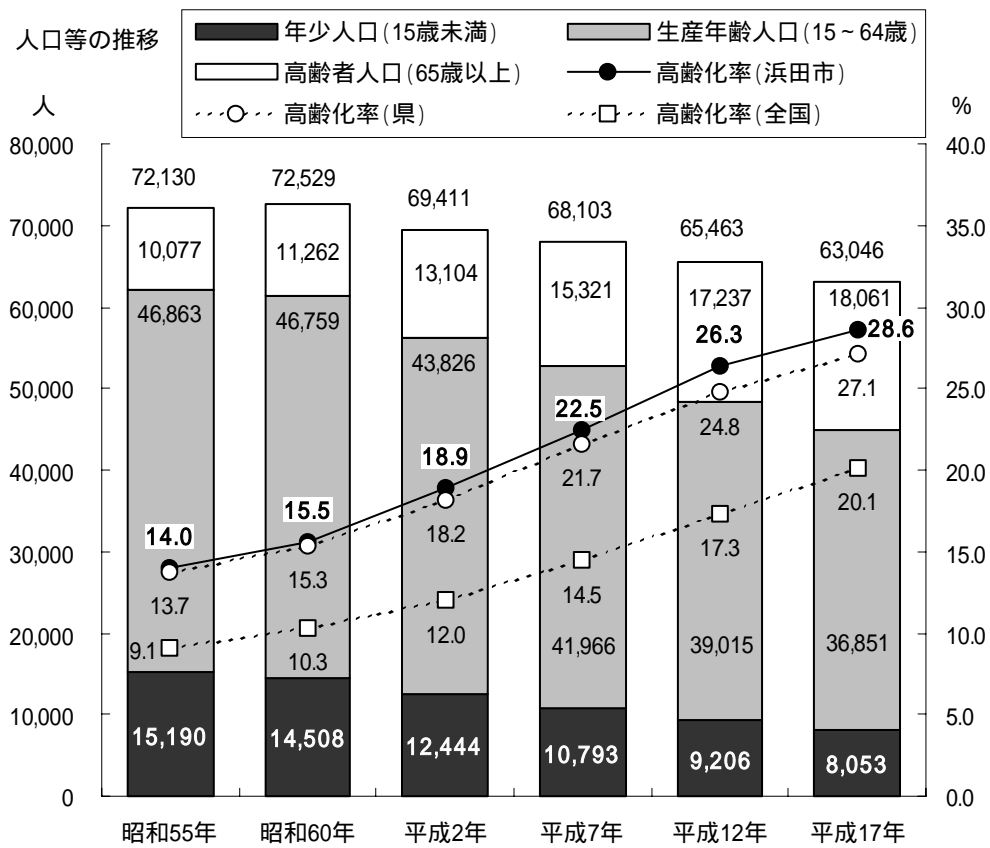


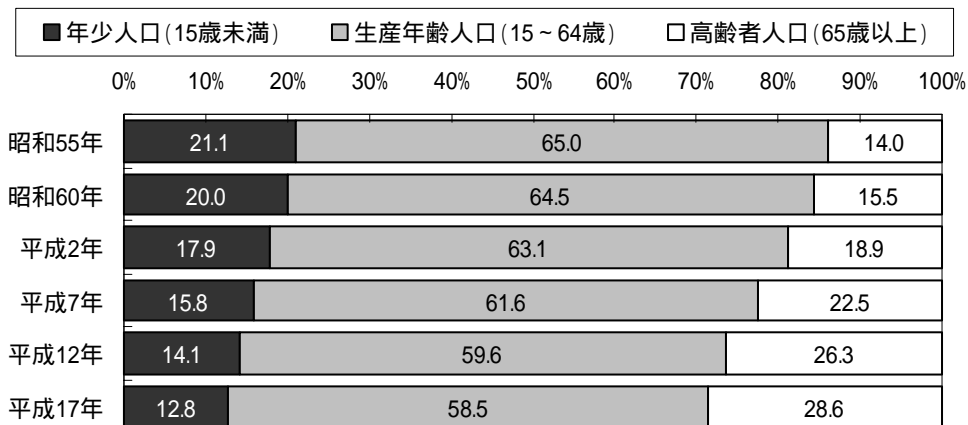
第2章 障害のある人等の状況

1 人口の推移

総人口は昭和60年以降、年々減少しています。人口構成をみると、年少人口及び生産年齢人口が年々減少している一方で、高齢者人口は増加しており、少子高齢化の進行がうかがえます。



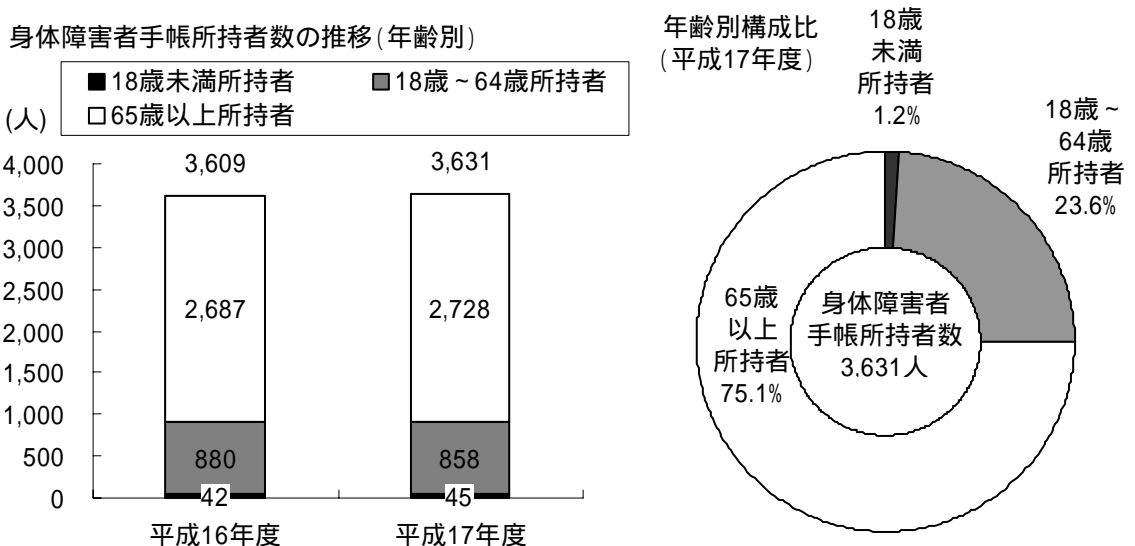
人口等の推移(構成比)



2 身体障害

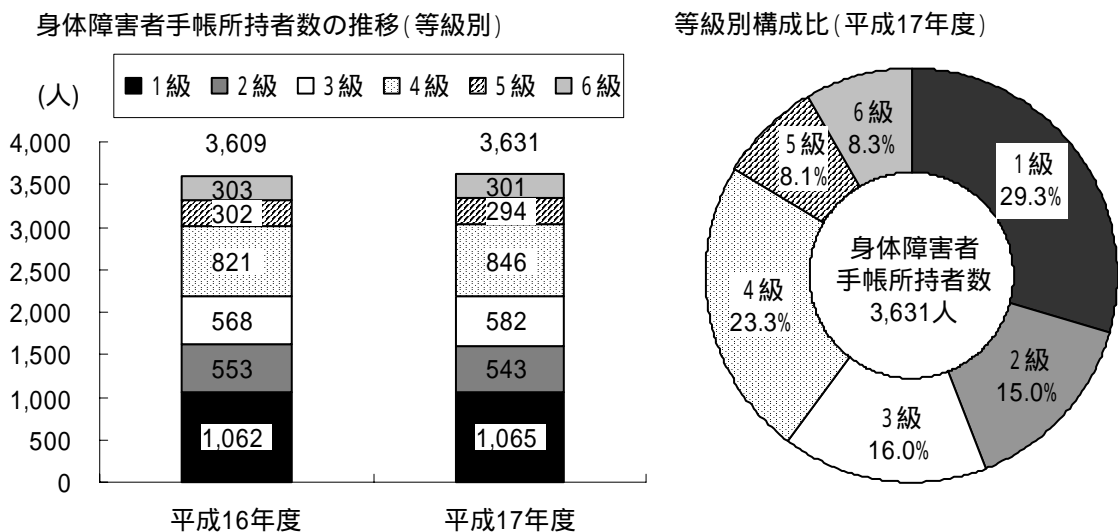
(1) 身体障害者手帳所持者数の年齢別推移

身体障害者手帳所持者数は平成 16 年度から平成 17 年度にかけて増加しており、特に 65 歳以上所持者が増加しています。平成 17 年度の構成比をみると、65 歳以上所持者が 7 割以上を占めています。



(2) 身体障害者手帳所持者数の等級別推移

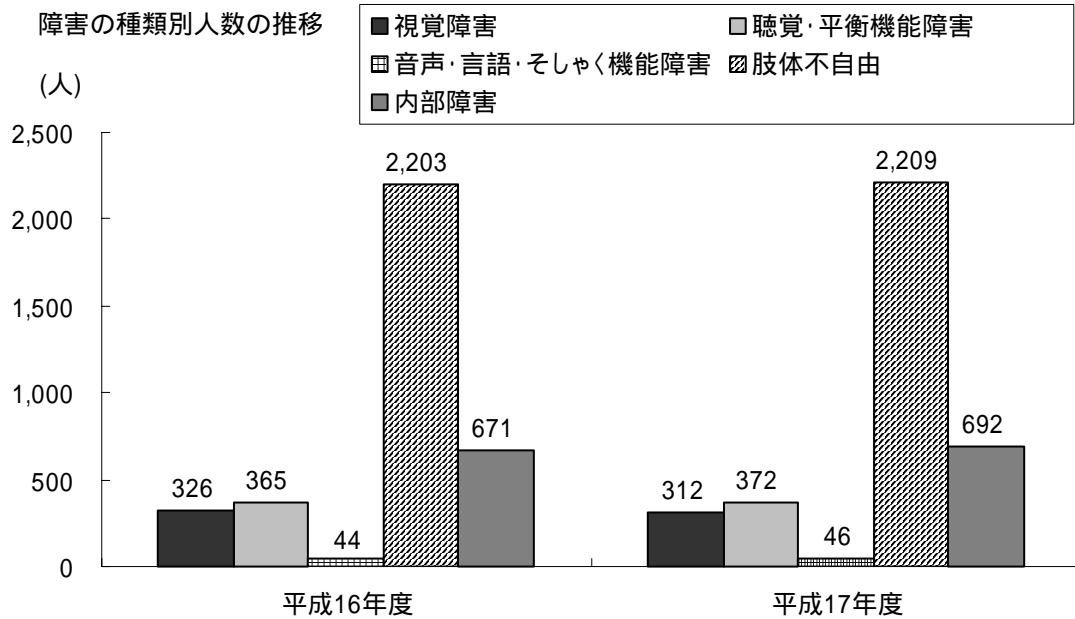
平成 16 年度から平成 17 年度にかけて、特に 3 級と 4 級が増加傾向にあります。平成 17 年度の構成比をみると、1・2 級を合わせた重度が 44.3%、3・4 級が 39.3%、となっています。



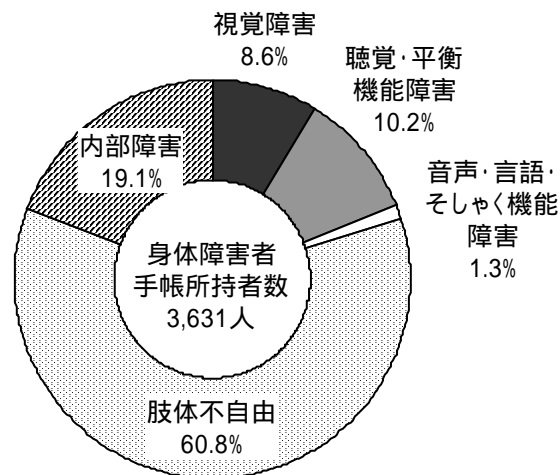
身体障害・知的障害・精神障害者に関するデータの出典先は、すべて「島根県立心と体の相談センター業務概要」(各年度、年度末現在)となっています。

(3) 身体障害者手帳所持者数の種類別推移

平成16年度から平成17年度にかけて、特に聴覚・平衡機能障害、内部障害が増加傾向にあります。平成17年度の構成比をみると、肢体不自由が60.8%と半数を超えており、次いで内部障害が19.1%、聴覚・平衡機能障害が10.2%となっています。



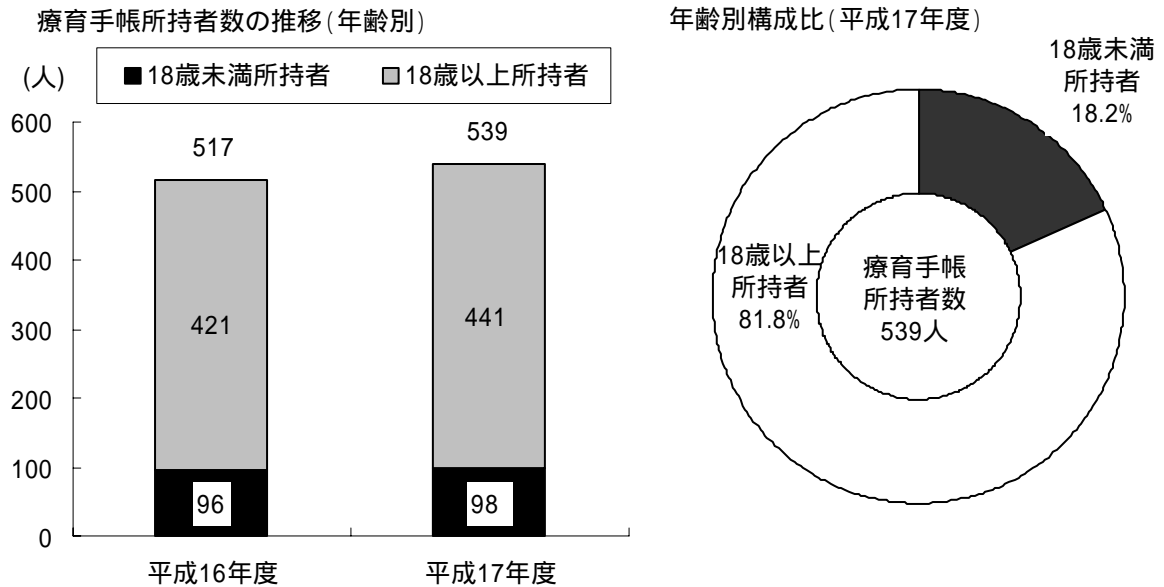
障害の種類別構成比(平成17年度)



3 知的障害

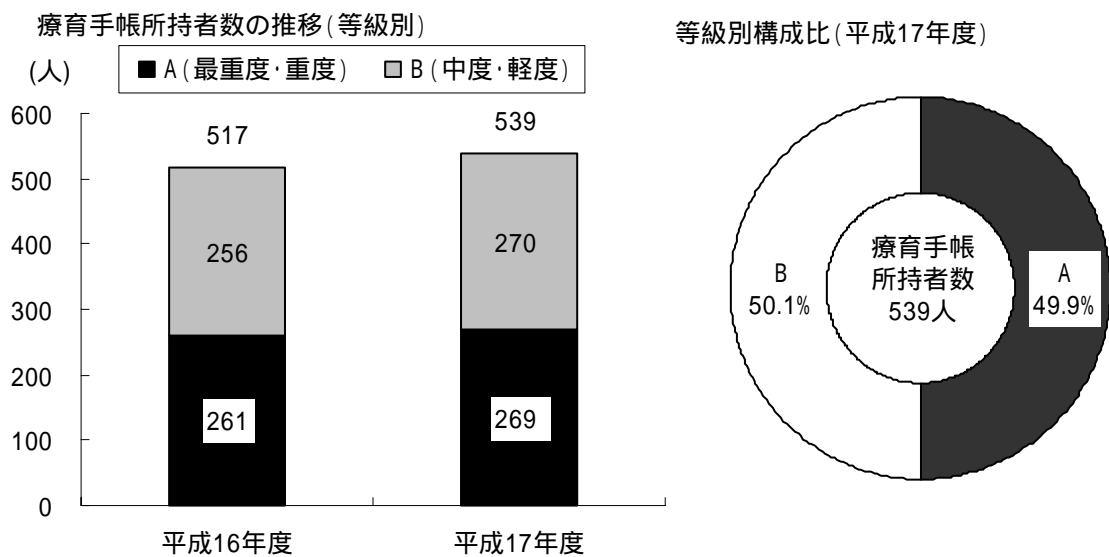
(1) 療育手帳所持者数の年齢別推移

療育手帳所持者数は平成16年度から平成17年度にかけて増加しています。平成17年度の年齢別構成比をみると、18歳以上所持者が8割を占めています。



(2) 療育手帳所持者数の等級別推移

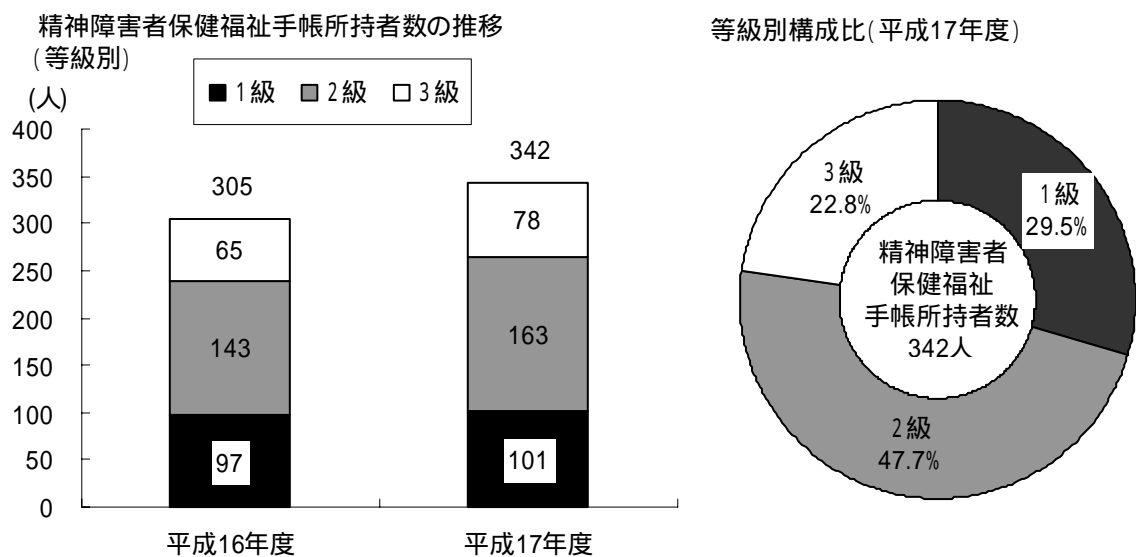
平成16年度から平成17年度にかけて、A、Bともに増加しています。平成17年度の構成比をみると、ほぼ半数ずつとなっています。



4 精神障害

精神障害者保健福祉手帳所持者数は平成 16 年度から平成 17 年度にかけて増加しています。平成 17 年度の等級別構成比をみると、2 級が 47.7%と最も高く、次いで 1 級が 29.5%、3 級が 22.8%となっています。

一方、精神科の医療機関などで通院医療を受けている人の人数をみると、手帳所持者よりも多いことがわかります。その数は平成 16 年度から平成 17 年度にかけて増加しており、平成 17 年度は 842 人となっています。



通院医療費公費負担対象者数の推移

